

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道有朋高等学校（定時制）
-----	----------------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年10月10日（火）	研修参加人数	41人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーを講師に迎え、スクールソーシャルワーカーの効果的な活用について研修を深めた。 ・問題解決アプローチの具体的手法、課題中心アプローチの具体的手法について ・本校で行っている支援について（生徒面接、保護者面接、社会資源（関係機関）に関する情報提供・調整など） 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーの役割や連携について理解を深めることができた。 ・本校生に対する具体的な支援を知ることができ、生徒へのアプローチの仕方について大変参考になった。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーが作成したパワーポイント資料 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）		
A 援助希求的 態度の 育成	○ 実践の概要（目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい環境を構築するために、北海道医療大学との連携を深め、学生によるピアサポート活動とアイスブレイク活動を柱に、援助希求的態度の育成を図った。 	
	○ 生徒の変容を促す工夫（授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が誰にでも気軽に相談できるよう、大学生による講話形式、対話形式、面談形式など、スタイルを変えてピアサポートを実施した。 ・アイスブレイク活動は、大学生が特定の授業に参加し、グループ学習のサポートを通して、仲間と相談したり、協力したりする力の育成を目指した。 	
	○ 生徒の変容（アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容）	<ul style="list-style-type: none"> ・7月から12月までの期間において、アセスメントツール「心と身体のチェック」を3回実施したところ、「悩みを話せる友人がいない」の項目の結果（全校生徒平均値）が減少した。 	
	○ 生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生もいろいろな悩みを抱えているのに、私たちに寄り添って一緒に考えてくれたことに感謝している。 ・先生との面談で言えなかったことでも、大学生には気軽に話すことができたので気持ちが楽になった。 	
		1回目	3回目
	悩みを話せる友人がいない	1.3	1.2

B 早期の問題認識 (心の健康)	○ 実践の概要	<ul style="list-style-type: none"> 5月を「カウンセリング週間」と位置付け、全校生徒を対象とした担任による個人面談に加え、希望者には週1回スクールカウンセラーとの面談を設定した。 特に、新入生に対しては副担任や教科担任との面談も取り入れ、相談体制の強化を図りながら、自分自身のこれまでの生活の振り返り、健康的に生きることへの意識向上を促した。 保健の授業「現代社会と健康（精神疾患の特徴）」における自殺の状況や自殺予防に関する学習を通して、自殺の深刻な実態や心の危機サインなどを学ばせることができた。
	○ 生徒の変容を促す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 北海道医療大学生によるピアサポート活動において、心の健康をテーマにした講話を実施した。 保健の授業では、心を蝕む要因、心が蝕まれていく様子など、具体例を示しながら説明し、心の健康について身近なもの、自分自身のこととして考えることができるようにした。
	○ 生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> 7月から12月までの期間において、アセスメントツール「心と身体チェック」を3回実施したところ、「心配や不安」「落ち込みや無気力」といった心の健康に関する項目の結果（全校生徒平均値）が減少した。
	○ 生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとっては何でもないことでも、人にとっては深刻なことだったり、その逆もあるので、人の心は、複雑だから、健康を保つことは口で言うほど簡単ではないと思った。 自殺する人の気持ちは、その人でなければわからないけど、救ってあげたいと思った。

	1回目	3回目
心配や不安	1.7	1.6
落ち込みや無気力	1.6	1.5

C ストレス対処能力の育成	○ 実践の概要	<ul style="list-style-type: none"> 保健の授業において「ストレスへの対処法と心の健康」について理解を深め、ストレス対処能力の育成を図った。 保健の授業を踏まえ、ホームルームで「竹のようなしなやかな心の作り方」についてグループ学習を実施した。
	○ 生徒の変容を促す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒には「大木」と「竹」が、台風（ストレス）への対処能力において大きな差があることを意識させ、実際の人間生活における心のあり様を考えさせた。 「しなやかな心の作り方」についてグループ毎に発表をさせた。
	○ 生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> 7月から12月までの期間において、アセスメントツール「心と身体チェック」を3回実施したところ、「怒りやイライラ」「環境とストレス」の項目の結果（全校生徒平均値）が減少した。
	○ 生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ストレスは、気持ちだけではなく、体にもいろいろな形で現れることがわかった。 気持ちの持ち方や物事の考え方で、ストレスを減らすことができそうだった。

	1回目	3回目
怒りやイライラ	1.4	1.3
環境のストレス	1.4	1.3